

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 7 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22252005

研究課題名(和文) グローバリゼーションが開発途上国の貧困・格差に及ぼす影響の国際比較研究

研究課題名(英文) Controlling the Impact of Globalization on the Poverty-Growth-Inequality Triangle:
An International Comparative Study

研究代表者

大坪 滋 (Shigeru, OTSUBO)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：40247622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,800,000円

研究成果の概要(和文)：経済のグローバリゼーション下の途上国開発においては、国内、国家間の格差が連動しつつ拡大していくメカニズムを理解し、対処せねば貧困削減に資する経済成長を達成し得ない。統合は、成長を「平均的」には不平等を産まずに加速させ、貧困削減に寄与するとされるが、実際には大きな「ばらつき」が存在する。本研究では国際経済統合が開発途上国経済におよぼす影響の「国家間のばらつき」とその各国特殊要因を探る「国際比較研究」を展開した。11カ国30余名の研究者の参加を得た国際共同研究の成果は、学術論文、国際学会、政策対話等を通じて発信され、最終成果は3冊組の英文書籍として新しい開発パラダイムを模索する世界に向けて発信された。

研究成果の概要(英文)： Globalization and Development Research Project is a "cross-national study" on the "interstate dispersion" of the impacts (to growth, inequality and poverty) that international economic integration provides to the economies of the developing countries. In order to present the "Leading Issues in Development with Globalization" in a balanced manner, to identify differences and commonalities among "Country Experiences" in development with globalization, and to introduce diversified development paradigms with forward-looking discussions "In Search of a New Development Paradigm" for the post-MDGs era.

This research project produced a three-volume book series (in English) as a unique and comprehensive guide for those in the international development community on the subjects of diversified development paradigms/paths under globalization and other challenges in the post-MDGs era.

研究分野：社会科学 経済学/経済政策 開発経済学

キーワード： グローバリゼーション 開発途上国 貧困 格差 不平等 国際開発 比較制度分析 開発と幸福

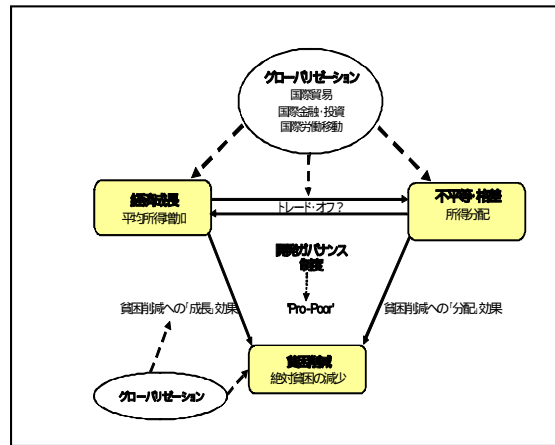
1. 研究開始当初の背景

経済活動の**グローバル化**下の**途上国開発**においては、**国内、国家間の格差**が連動・重層化しながら拡大していくメカニズムを理解し、対処に努めなければ**貧困削減につながる経済成長 (Pro-Poor Growth)**を達成することはできない。国際貿易理論や国際資本フローの理論では国際経済統合は先進国側と途上国側に対称的な効果・事象を発生させ、主に途上国の(非熟練)労働者の受益を通じて貧困削減につながることを示唆している。多くの既存実証研究においても経済統合は、成長を「平均的」に加速させ、また「平均的」には分配中立であることから貧困削減に寄与するはずとしている。しかし実際にはこの「平均的」な関係の周囲には諸国横断で見ても、時系列で見ても多くの「ばらつき」が存在し、グローバル経済への統合が成長につながらない諸国や、成長に寄与しても所得分配や産業の空間分布の不平等の増大から貧困削減につながらない諸国が多く出現している。そこで、**国際経済への統合が途上国経済社会におよぼす影響(成長、不平等、貧困について)の「国家間のばらつき」とその各国特殊要因(社会経済制度や政策パッケージ等)を探る「国際比較研究」**を展開し、グローバル化下の開発戦略への提言を、Post-MDGs 時代に向けて新しい開発パラダイムを模索する世界の国際開発コミュニティに向けて発信することが望まれていた。

グローバル化の中においても多様化する開発思想、パラダイムを考えると、多様性に富むアジアを中心に、世界の開発経験を比較制度分析し、諸国間の共通項と相違点を洗い出すことから、新しい多様性存続にも配慮した国際開発パラダイム提言に向けたアジア発の国際共同研究が強く期待されていた。

2. 研究の目的

開発経済学に於ける貧困削減の三角形(右上図の黄色部分)に関する最近の実証研究では、経済成長と所得分配の関係については、これを規定するものは社会経済構造・制度・文化・政策等の各国固有の要因であると考えられ、経済成長が所得分配を悪化させる、あるいは所得分配の悪化が経済成長を減速(あるいは加速)させると言う必然性は存在しないことが示された。と同時に、貧困削減への成長効果と分配改善効果の弾性値には1対2以上の差があり、経済成長が加速されてもそれが副産物として所得の不平等につながる場合は貧困削減に寄与し辛いことが示された。ここで、国内格差を拡大すると考え



られているグローバル化(貿易、金融・投資、労働移動)を通じた成長戦略が果たして貧困削減につながるのかどうかという疑問が発生する。国際貿易理論(ストルパー=サミュエルソン定理、要素価格均等化定理等)はある一定の仮定(技術平衡等)の下で、貿易自由化で諸国間の要素(労働、資本)価格の均等化が先進国と途上国間で対称性を持って具現化することを予測する。即ち資本集約的な(あるいは熟練労働集約的な)製品を製造輸出している先進諸国では(非熟練)労働者の賃金が相対的に低下し、(非熟練)労働集約的な製品を製造輸出している開発途上諸国では(非熟練)労働者の賃金が相対的に上昇し、これが貧困削減につながるというものである。また、国際金融(投資)理論は、資本豊富な先進国からより高い資本収益率を求めて資本不足の開発途上国に資本が流れ、これが途上国において労働者1人当たりの資本量の増加(資本深化)を通じて労働生産性と賃金を上昇させ貧困削減につながる。(労働移動の効果はこれらの組み合わせで考察可。)これらが必ずしも具現化せず貧困削減につながらない各国特有の要因を洗い出して比較し、対処療法に共通性が見いだせるかどうかを明らかにする必要がある。

グローバル化の影響を考える上で、グローバル化には政治・経済・文化の3大潮流とイデオロギー・人・情報・制度の4底流のあることを踏まえ、「貧困」を経済的指標のみならず、国民の福祉(well being)なり幸福(happiness)なりからも捉え直す試みに挑戦する。

これらの研究成果をもって、国際開発コミュニティ、国際開発協力コミュニティが世紀の開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)の達成年度2015年を迎え、それ以降の開発アジェンダ設定を目指す中、新しく、かつ多様性を重んじる開発パラダイム構築への提言を行うことを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、**1)** 先ずグローバリゼーションと貧困削減の関係につき、モノのグローバリゼーション（国際貿易統合）、カネのグローバリゼーション（国際金融統合と開発外部金融の多様化）、およびヒトのグローバリゼーション（国際人口移動と労働市場統合）のインパクト波及経路構造を把握し、研究者間で共有する。**2)** 次にそれぞれの市場とそれらを結ぶチャンネルにおける経済統合の影響の種類と方向性についての国際経済学、開発経済学、新制度経済学の理論体系、過去の（諸国横断および各国特有の）実証分析を整理し各事象に於ける「平均的」な関係と「ばらつき」の存在を確認・共有し、「ばらつき」の要因についての実証分析・ケース分析における研究仮説を整理・共有する。**3)** ケース国（中国、ベトナム、タイ、インドネシア、ブータン、ガーナ）において現地研究協力機関と協力し、設定された研究仮説に基づき現地調査・分析を実施、各国特有の要因を洗い出す。**4)** 最後にそれらの比較研究から、経済統合の成長促進効果を最大化し、格差拡大効果を最小化することを目指す対処療法、構造・制度改革を導きだし、各国の事情に応じた政策翻訳を試みる。

分析手法には、i)数量分析（諸国横断的計量分析、計算可能な一般均衡モデル分析、各国の家計調査データおよび企業データを使用したミクロ計量分析）、ii)言説分析（特に文化・社会的基盤、制度に関して）、iii)政治経済学的論考分析、およびiv)ケーススタディを組み合わせて使用する。

以上の書分析を、1)グローバル化の事象把握、2)グローバル化の影響の実証研究の整理と統合実証研究成果の提示、3)グローバル化の成長、格差、貧困への影響のコントロールファクタの把握と影響分析、4)各国のグローバル化の中の経済社会発展についてのケーススタディ、5)各国各地域の多様な開発パラダイムの提示と、多様性をもった新しい開発パラダイムの提示に分けて最終研究成果としてまとめて発表する（英文書籍編纂刊行）。

4. 研究成果

研究成果は多くの学術論文、国際学会、開発政策対話等を通じて積極的に発信されてきた。我が国の国際開発協力を担う国際協力機構 JICA 研究所や、世界銀行からも象徴的な論文を発表して反響を呼んでいる。最終的に本国際共同研究プロジェクトの成果は、Routledge から刊行される3冊組の英文書籍

にまとめられ、アジア、ニューヨーク、ロンドンから紙媒体および電子書籍の形で世界に向けて発信される（2015年7月-9月順次刊行）。以下にその概略と関連 URL を記す。

Globalization and Development (Routledge)

http://www.routledge.com/books/search/author/shigeru_otsubo/

Globalization and Development is a "cross-national study" on the "interstate dispersion" of the impacts (to growth, inequality and poverty) that international economic integration provides to the economies of the developing countries. In order to present the "Leading Issues in Development with Globalization" in a balanced manner, to identify differences and commonalities among "Country Experiences" in development with globalization, and to introduce diversified development paradigms with forward-looking discussions "In Search of a New Development Paradigm" for the post-MDGs era, this publication consists of three volumes and four main parts. This book intends to serve as a unique and comprehensive guide for those in the international development community on the subjects of diversified development paradigms/paths under globalization and other challenges in the post-MDGs era.

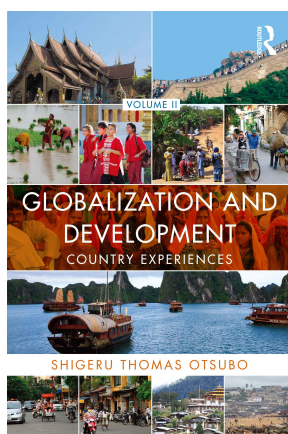
Volume I: Leading issues in development with globalization (2015年7月刊行)

Volume I (Part I) introduces the evolution and facets of globalization, and the challenges that we face in our development efforts under globalization. Findings from the old and new empirical studies are consolidated for us to answer the following question. What do we really know about the impacts of globalization? Volume I (Part II) contains thematic and issue-oriented discussions on the key facets of globalization.



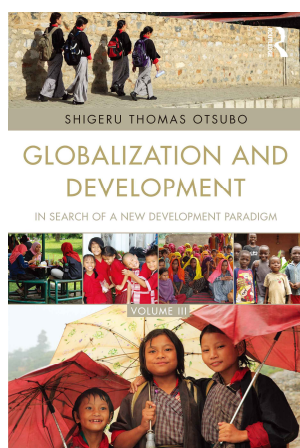
Volume II: Country experiences (2015年9月刊行)

Volume II (Part III) presents the country case studies of Bhutan, China, Indonesia, Japan, Thailand, Vietnam, and Ghana, with their respective experiences of development under globalization. An additional chapter that describes the overall African experience under globalization is included, reflecting the recent emergence of Africa as the global target of investment.



Volume III; In search of a new development paradigm (2015年9月刊行)

Volume III (Part IV) presents the diversified development paradigms such as the GNH (Bhutan), the Sufficiency Economy (Thailand), the Reform and Opening Up (China), the African and Latin American paradigms, and the Islamic development paradigm. The Concluding Chapter presents the evolution of development paradigms in the global development cooperation community after WWII, and then offers a glimpse into new development paradigms for the post-MDGs era.



なお、経済指標（一人当たりの所得、消費等）以外での「開発」の測定、「開発と幸福」等の主観的な厚生水準 (Subjective

Well-being)、持続的な開発、持続的な社会に関する開発パラダイムをも取り扱った本国際共同研究プロジェクトの成果とりまとめの過程から、「経済成長のエンジンの質」が改めて問われることとなった。これを受けて次期「グローバリゼーションと開発」国際共同研究プロジェクトとして、「グローバリゼーション下の産業政策」を官民協力や国際協力イニシアティブを盛り込んだ形で展開する準備を行い、科研費基盤研究 A(海外学術)を申請し、採択されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者には下線)

【雑誌論文】(計 30+より 20 件記載)

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, “Aid Is Good for the Poor,” *World Bank Policy Research Working Paper*, WPS6998, pp. 1-40 (2014) (査読有).

木村宏恒 「ガバナンスの政治経済学的分析—統治と共治の関係を見据えて」『国際開発研究』, 23(1), pp.7-22 (2015)(査読有).

川島富士雄 「中国における競争政策の動向—2013年における独占禁止法の運用と今後の課題」『公正取引』, 762, pp.2-7 (2014)(査読無).

Ken Itakura, “Impact of liberalization and improved connectivity and facility in ASEAN,” *Journal of Asian Economics*, 35, pp. 2-11 (2014) (査読有).

Ken Itakura, Yoshifumi Fukunaga, and Ikuno Isogo, “A CGE Study of Economic Impact of Accession of Hong Kong to ASEAN-China Free Trade Agreement,” *ERIA Discussion Paper*, 2013-06, pp. 1-22 (2013) (査読無).

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, “Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration,” *GSID Discussion Paper Series*, 191, pp. 1-42 (2012) (査読無).

Teguh Dartanto and Shigeru Otsubo, “Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty in Indonesia,” *Japan International Cooperation Agency Research Institute Working Paper*, 54, pp. 1-50 (2013) (査読有).

川島富士雄 「中国における競争政策の動向」『公正取引』, 749, pp.2-10 (2013)(査読無).

Sanae Ito, “Social Business for Pro-Poor Growth,” *Forum of International Development Studies*, 43, pp. 17-28 (2013) (査読有).

Akihiro Asakawa, "Why Boat People Are Not Welcome: Australia's Refugee Policy in the Context of Immigration Management," *Working Paper Series Studies on Multicultural Societies*, 12, pp. 1-23 (2013) (査読無).

Ken Itakura and Hiro Lee, "Welfare Changes and Sectoral Adjustments of Asia-Pacific Countries under Alternative Sequencings of Free Trade Agreements," *Global Journal of Economics*, 1(2), pp. 1-22 (2012) (査読有).

尹清洙・藤川清史 「東アジアの貿易と環境 - 東アジアリンク CGE モデルによるシミュレーション分析」『国際経済(日本国際経済学会研究年報)』, 62, pp.23-44 (2011)(査読有).

川島富士雄 「WTO 加盟後 10 年を経た中国における法制度及び事業環境 グローバル・スタンダードと中国的特色ある制度の衝突?」『組織科学』, 42(2), pp.16-27 (2011)(査読無).

Sanae Ito, "Civic Duty for Community Development," *Journal of International Development*, 23, pp. 868-879 (2011) (査読有).

浅川晃広 「オーストラリアにおける近年の技術移民政策--「選別」と「就労」の関係を中心に」『オーストラリア研究』, 25, pp. 73-87 (2012) (査読有).

渡邊隆俊・下田充・藤川清史 「農水省「食料自給率」指標の問題点」『世界経済評論』, 4-5号, pp. 26-32 (2011) (査読無).

川島富士雄 「中国による鉱物資源の輸出制限と日本の対応」『ジュリスト』, 1418, pp.37-43 (2011)(査読無).

川島富士雄 「中国による補助金供与の特徴と実務的課題 米中間紛争を素材に」, 特別行政法人経済産業研究所ディスカッションペーパー, 11-J-067, pp.1-416 (2011)(査読有).

浅川晃広 「高度外国人材」受け入れ政策と留学生労働市場の現状 豪州移民政策の経験と日本の課題」『経済政策ジャーナル』, 7(2), pp.42-45 (2010)(査読有).

Sanae Ito, "Duty-Based Approaches to Community Development," *GSID Discussion Paper Series*, 180, pp. 1-11 (2010) (査読無).

【学会発表】(計 50+より 21 件記載)

Shigeru Otsubo, "New Development Challenges in the 21st Century: Key for Asia to a Sustainable Development Path," The 2nd International Conference on Asian Economic Development (Aug. 14, 2013), Chiang Mai, Thailand (招待講演).

Shigeru Otsubo, "Aid Is Good for the Poor," ODA at 60 Special Session, The 24th National Conference of Japan Society for

International Development (Nov. 30, 2013), Osaka University, Osaka (招待講演).

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, "Pro-Poor Institutions for Development Effectiveness—Cross Country Empirical Analysis and a Case Study of Ethiopia," The 24th National Conference of Japan Society for International Development (Nov. 30, 2013), Osaka University, Osaka.

Ken Itakura, "Impact of Liberalization and Improved Connectivity and Facilitation in ASEAN," The 17th Annual Conference on Global Economic Analysis (June 20, 2014), Dakar, Senegal.

Ken Itakura, "Highlighting the ASEAN Story: AMSs Performance and Prospects beyond 2015," The ERIA Workshop of Explicating Jakarta Framework Project (June 20, 2014), Jakarta, Indonesia.

Shigeru Otsubo, "Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty in Indonesia," The 13th International Conference of the East Asian Economic Association (Oct. 19, 2012), Singapore.

Yumeka Hirano and Shigeru Otsubo, "Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration," The 13th International Conference of the East Asian Economic Association (Oct. 20, 2012), Singapore.

Shigeru Otsubo, "Choice of Poverty Measurements and Its Implications on Poverty Outcome and Policy Intervention," 2012 International Conference of the Happiness and Capability Association (Sept. 7, 2012), Jakarta, Indonesia.

Shigeru Otsubo, "Well-being and Happiness in Japan's Economic Development: In Search of the New Goals of Development," The 1st International Conference on Asian Economic Development (Aug. 30, 2012), Chiang Mai, Thailand (招待講演).

Shigeru Otsubo, "Measurements and Determinants of Multifaceted Poverty: Absolute, Relative, and Subjective Poverty," (Jan. 27, 2013), Thimpu, Bhutan (招待講演).

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, "Poverty-Growth-Inequality Triangle under Globalization: Time Dimensions and the Control Factors of the Impacts of Integration," The 23rd National Conference of Japan Society for International Development (Dec. 1, 2012), Kobe University, Kobe.

木村宏恒 「途上国開発戦略におけるガバナンス」, 日本国際開発学会第 23 回全国大会 (2012 年 12 月 2 日), 神戸大学, 神戸.

Fujikawa Kiyoshi and Ban Hikari, "East Asian Common Carbon Market—An Analysis

using GTAP-E Model,” 2012 年韓国環境経済学会夏季学術大会 (2012 年 7 月 6 日), 全北大学, 韓国全州市.

Sanae Ito, “Social Business for Pro-Poor Growth,” International Conference on Food Security (Nov. 27, 2012), University of Brawijaya.

Sanae Ito, “Why does globalization matter to microfinance?” International Workshop on Recent Developments in Microfinance (Jun. 22, 2012), Nagoya University, Nagoya.

浅川晃広「在日外国人と社会保障-生活保護を中心に」, 日本人口学会第 64 回大会 (2012 年 6 月 3 日), 東京大学.

Ken Itakura, “FTA/EPA Implementation Observed in Japan,” 2012 APEC Workshop on FTA Implementation (Nov. 16, 2012), Haevichi Hotel, South Korea.

Ken Itakura, “Welfare Changes and Sectoral Adjustments of Asia-Pacific Countries under Alternative Sequencings of Free Trade Agreements,” 日本国際経済学会 (2012526), Nanzan University, Nagoya.

Shigeru Otsubo and Yumeka Hirano, “Happiness in the Post-WWII Japanese Economic Development,” (Aug. 12, 2011), Thimpu, Bhutan (招待講演).

Kiyoshi Fujikawa, Takatoshi Watanabe, Mitsuru Shimoda, and Ye Zuoyi, “Price effects of VAT reform in China: With a focus on refund rate of export tax and tax credit of investment goods,” The 19th International Input-Output Conference (June 17, 2011), Alexandria, USA.

21 日本国際開発学会第 22 回全国大会にて Plenary Session 「グローバリゼーション下で多様化する開発目的: アジアの視点, アフリカの視点, 我が国の視点 (Diversification of Development Goals under Globalization: Perspectives from Asia, Africa, and Japan)」提供開催, Shigeru Otsubo, Dasho Karma Ura, Paranee Watana, and Yaw Asante, (2011 年 11 月 26 日), 名古屋大学.

【図書】(計 5 件)

Otsubo, S. T. (Ed.).(2015). *Globalization and Development Volume I: Leading issues in development with Globalization*. London: Routledge. 550 pages.

Otsubo, S. T. (Ed.).(2015). *Globalization and Development Volume II: Country experiences*. London: Routledge.

Otsubo, S. T. (Ed.).(2015). *Globalization and Development Volume III: In search of a new development paradigm*. London: Routledge.

木村宏恒, 近藤久洋, 金丸裕志(共編著), (2014), 『開発政治学の展開』, 東京; 勁草書房, 380 頁.

Kimura, H., Suharko, Javier, A., and Ake T. (Eds.). (2011). *Limits of Good Governance in Developing Countries*. Gadjah Mada, Indonesia: Gadjah Mada University Press. 570 pages.

【その他】

研究プロジェクトホームページ等

http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/sotsubo/index_GlobalizationKaken.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

*大坪 滋 (OTSUBO SHIGERU)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 40247622

(2) 研究分担者

*長田 博 (OSADA HIROSHI)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 40233506

*木村 宏恒 (KIMUJRA HIROTSUNE)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 20112386

*藤川 清史 (FUJIKAWA KIYOSHI)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 60190013

*梅村 哲夫 (TETSUO UMEMURA)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 30293715

*川島 富士雄 (KAWASHIMA FUJIO)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 80234061

*伊東 早苗 (ITO SANAE)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・教授
研究者番号: 80334994

*浅川 晃広 (ASAKAWA AKIHIRO)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・講師
研究者番号: 80402410

*板倉 建 (KEN ITAKURA)

名古屋市立大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号: 90405217

(3) 研究協力者

*ジョン・クロード マズワナ (J. C.

MASWANA)

筑波大学・ビジネスサイエンス系・准教授
研究者番号: 30378525

*西川 由紀子 (NISHIKAWA YUKIKO)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・准教授
研究者番号: 70584936

(4) 海外研究協力者、研究協力機関

アジア、アフリカ、南米 10 カ国 20 名参画